

## 第2章

# 計画改訂に当たって～前計画の評価

- 1 住民意識調査にみる成果及び課題
- 2 前計画の主要施策の実施成果及び課題
- 3 改訂に当たって盛り込むべき視点



# 1 住民意識調査にみる成果及び課題

春日市文化振興基本計画の策定にあたり「文化に関する市民意識調査」を実施し、市民の文化に対する意識、実態及びニーズなどの把握を行いました。

本調査から、これまでの春日市の文化振興の成果と課題として以下のような結果が分析されました。

### <調査概要>

- 実施時期：平成23年9月6日～9月20日
- 対象者：市内在住の18歳以上の男女から2,000名を無作為抽出
- 調査方法：調査表の郵送による配布・回収
- 改修サンプル数：539件（回収率26.9%）

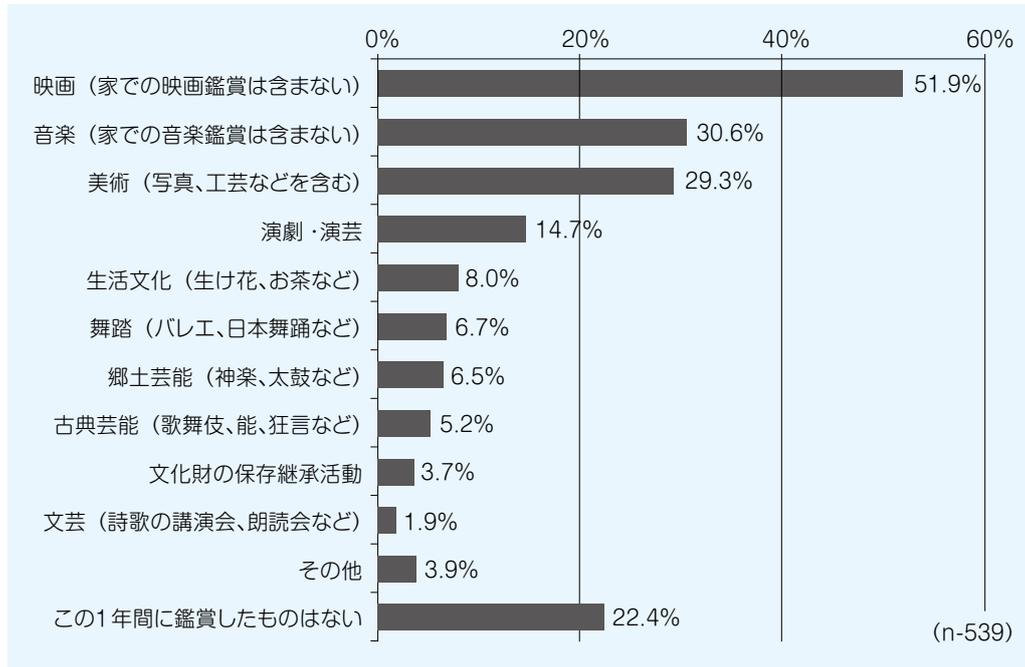
## (1) 文化活動の鑑賞・参加状況

- 前計画時の調査結果（以下、「前回調査」）と同様に「映画」「音楽」「美術」の鑑賞経験があると回答した市民が多く、特に「映画」については手軽に鑑賞できる文化芸術として、前回調査と比べ鑑賞率が高くなっています。
- 文化芸術を鑑賞する上で不満な点として、各分野の鑑賞経験があると回答した市民層を中心に「出かけたと思う文化芸術が少ない」という傾向が高くなっており、鑑賞経験の多い市民へ、ニーズにあった文化芸術の鑑賞機会の提供が課題であると考えられます。
- 文化芸術の体験活動に関しては、「この1年間に体験したものはなし」と回答する人が51.9%と半数を超えています。
- 文化芸術活動を体験しない理由として、10代、30代、40代の年齢層で「忙しくて時間がとれない」という回答が多く上っています。

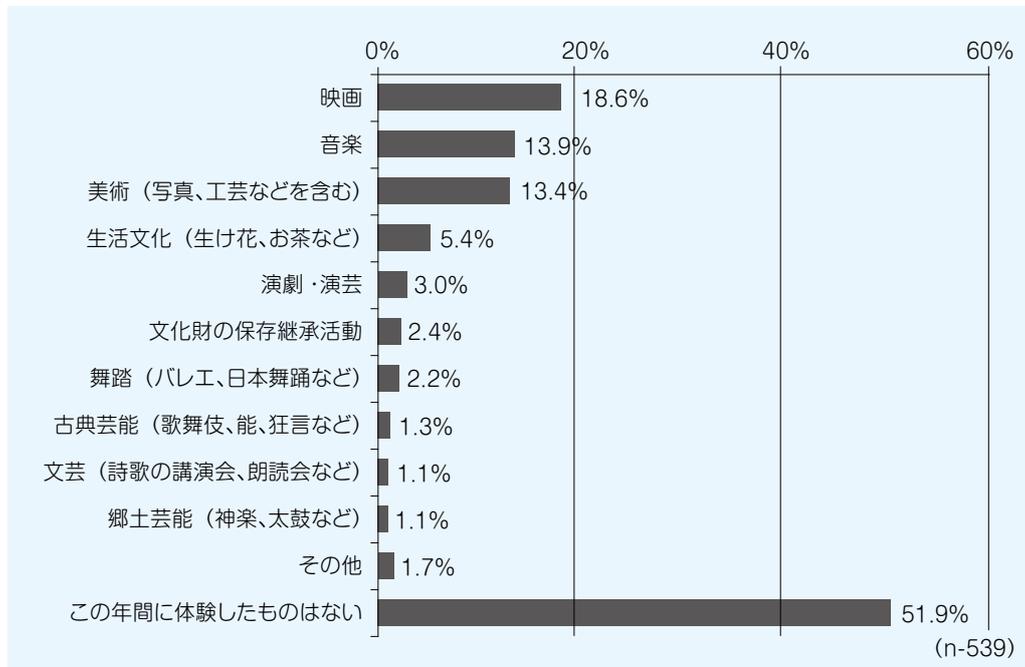


弥生の里音楽祭オープニングコンサート

■ あなたがこの1年間に外に出かけて鑑賞した文化芸術は何ですか



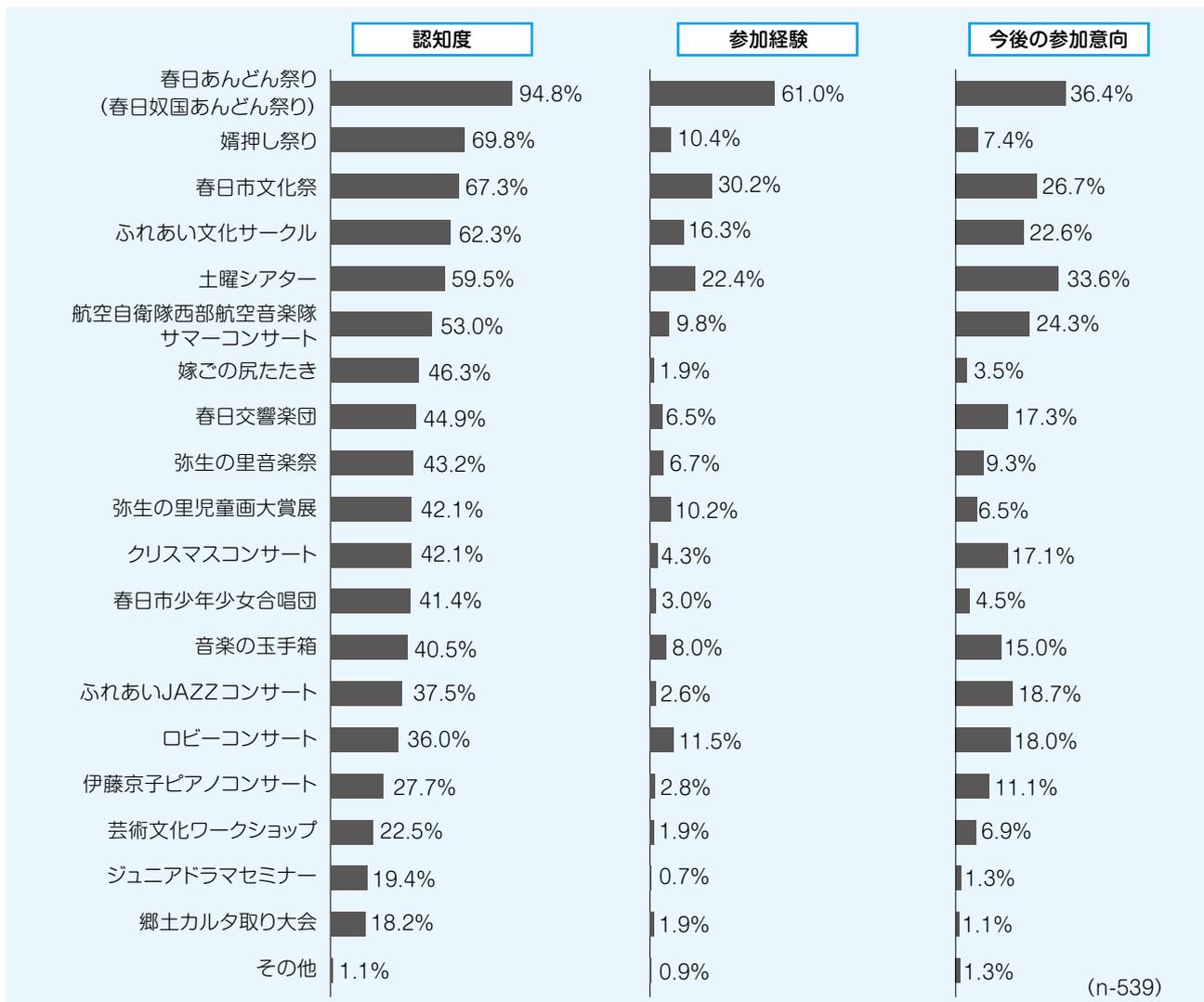
■ あなたがこの1年間に自ら体験した文化芸術活動は何ですか



## (2) 春日市の文化的催しなどの認知度・参加度・参加意向

- 全体的に文化的催しなどの認知度及び今後の参加意向は前回調査を上回っており、文化芸術への関心及び参加意欲が高まっていることがわかります。一方、参加経験については前回調査を下回るものが多く、今後は、参加意向をもつ人たちをいかに参加につなぐかが課題であると考えられます。
- 特に「土曜シアター」「音楽の玉手箱」については、認知度、参加経験、今後の参加意向ともに前回調査を上回っており、文化振興の取組が成果をあげています。

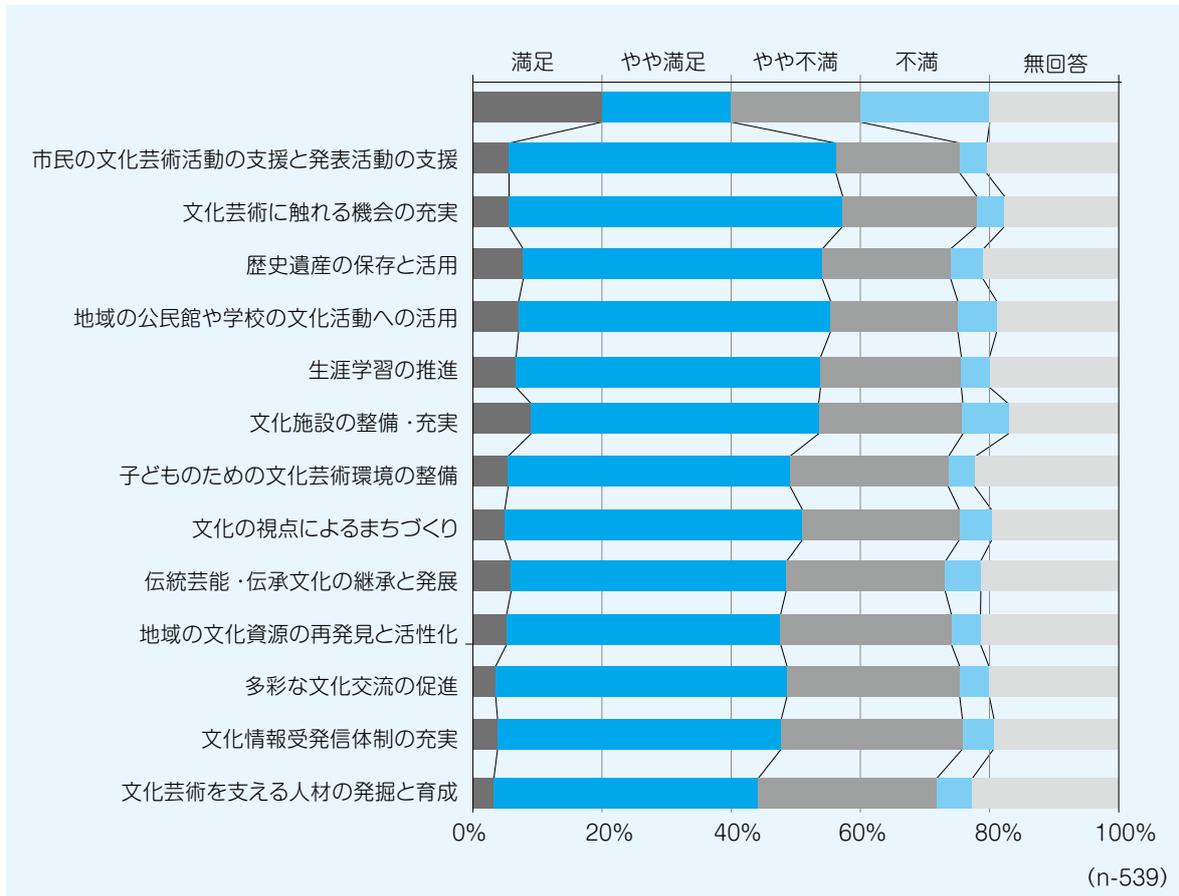
### ■ 文化的な催しや伝統行事の認知度、参加経験の有無、今後の参加意向について



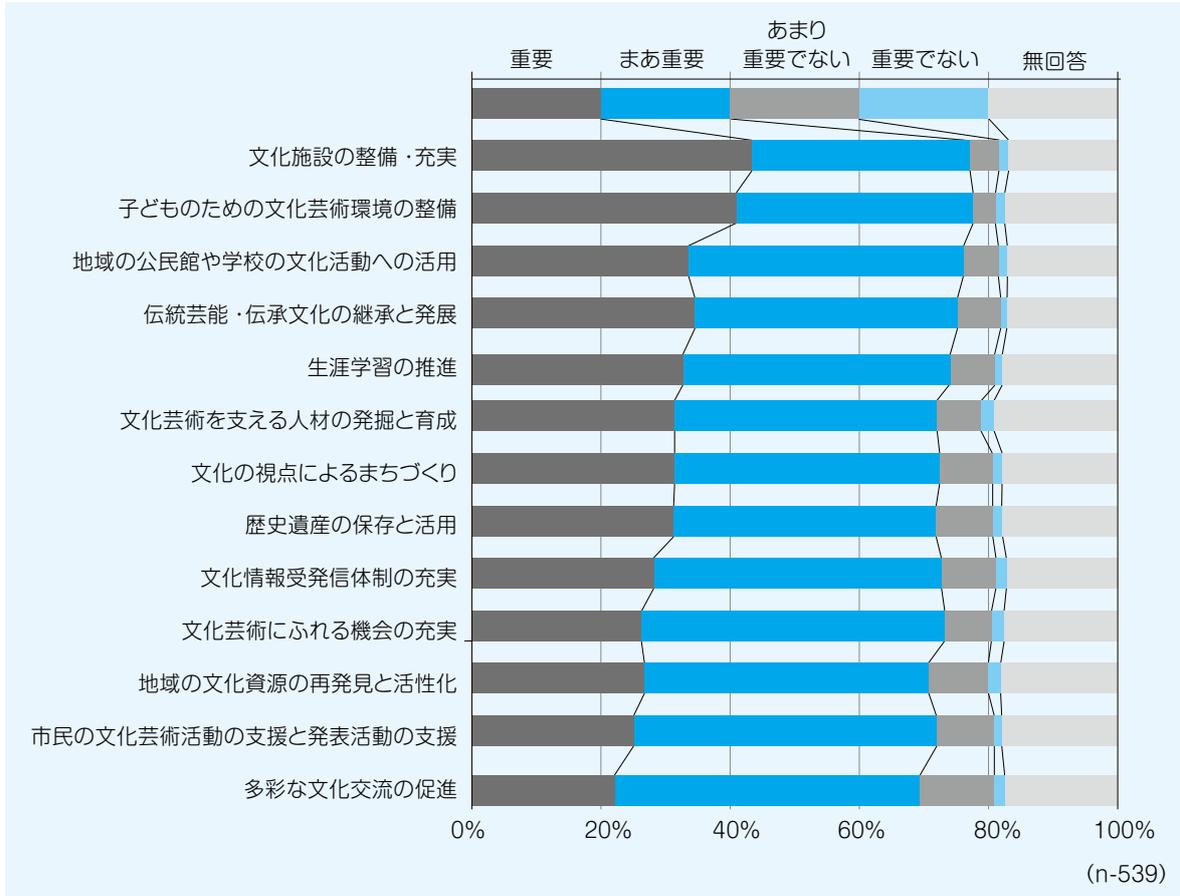
### (3) 春日市の文化芸術振興に対する評価・今後の意向

- 前計画に示された文化芸術振興の各施策の中で、「市民の文化芸術活動の支援と発表活動の支援」「文化芸術に触れる機会の充実」「歴史遺産の保存と活用」については、満足度の高い評価となっています。一方、「文化芸術を支える人材の発掘と育成」「文化情報受発信体制の充実」については、満足度が低い評価となっています。特に文化情報受発信については、文化振興で重視すべき点においても「文化活動に関する情報発信・交通網の整備」が上位となっていることから、今後、重点的に考えるべき施策であると思われます。
- 今後の重要度が高い施策は「文化施設の整備・充実」「子どものための文化芸術環境の整備」となっています。また、文化振興で重視すべき点においても「青少年の文化活動の支援」が上位となっていることから、今後、重点的に考えるべき施策であると思われます。
- その他、文化振興で重視すべき点として、前回調査に引き続き「一流の音楽・芸術・芸能などに触れる機会の拡充」が最上位となっています。

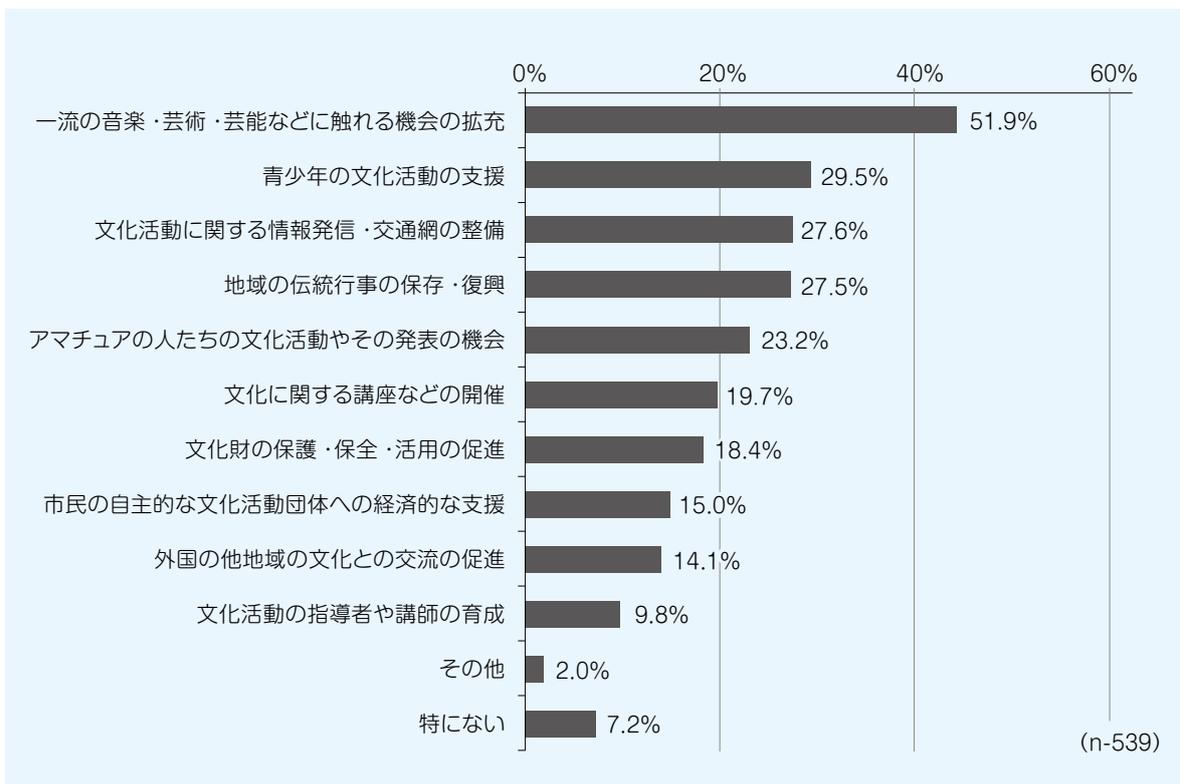
#### ■ これまでの春日市における文化芸術振興に関する満足度について



## ■ これからの春日市における文化芸術振興に関する重要度について



## ■ 春日市の文化芸術振興のために特に力を入れるべきだと考えることは



## 2

## 前計画の主要施策の実施成果及び課題

春日市文化振興基本計画の改訂にあたり、前計画における各施策の実施状況について検証し、これまでの文化振興における成果及び課題として次のように整理しました。

## (1) 支える・育てる — 仕組み —

## &lt;前計画の施策&gt;

春日市の文化を支え、育てるための「弥生の里文化会議（仮称）」の創設



## &lt;成果及び課題&gt;

- 春日市の文化振興を支える組織づくりとして、市民や学識経験者、文化芸術関連団体の委員で構成される「春日市文化芸術審議会」を組織し、春日市の文化施策のあり方を検討・協議しています。「弥生の里文化会議（仮称）」の設立については、具体的な検討には至っていません。しかし、今後の春日市の文化振興を推進していく上で、多くの市民が連携・交流し、文化のネットワークを広げていくことは重要な要素であると考えます。今後は、既存の文化芸術審議会の活動を充実させていく中で「弥生の里文化会議（仮称）」に代わる組織づくりを検討していく必要があります。



春日市文化芸術審議会

### (2) 動き出す — 人 —

#### <前計画の施策>

文化芸術に触れる機会の充実

創造・発表活動の支援

生涯学習の推進

子どものための文化芸術環境の整備

文化芸術を支える人材の発掘と育成



#### <成果及び課題>

- 各招聘事業や「芸術文化ワークショップ」「音楽の玉手箱」などを実施し、音楽分野を中心に市民が文化芸術に触れる機会の充実を図っています。今後は、さらに幅広い市民が多様な文化芸術を享受できるよう、機会の充実や参加促進の仕組みづくりが求められます。
- 市民の文化芸術の創造・発表活動として、「春日市少年少女合唱団」「弥生の里音楽祭」「春日ジュニアドラマセミナー」など、様々な文化芸術分野の事業を展開しています。
- 市民の文化芸術の発表の場である「春日市文化祭」については、市民の参加を促すことで「行政と市民が一緒につくりあげる市民文化祭」となるよう、市民による実行委員会形式での運営を継続し充実していくことが求められます。
- 生涯学習活動として、お宝文化百選事業による文化に関する学習講座を展開しています。今後は、主体的な市民活動を行える人材や活動団体の育成・支援が課題となっています。
- 子どものための文化芸術環境として、「音楽の玉手箱」「春日ジュニアドラマセミナー」「春日市少年少女合唱団」「弥生の里児童画大賞展」を展開しています。今後もより一層、子どもが文化芸術に触れ、体験する機会の充実が求められます。
- 文化芸術を支える人材の発掘・育成のため、専門的な職員の人材育成が求められています。また、市民の人材発掘と活用については「お宝文化人」制度や「人財づくり講座」などを有効に活用した展開などが課題となっています。

### (3) 受け継ぐ — 文化資源 —

#### <前計画の施策>

歴史遺産の保存と活用

伝統芸能・伝承文化の継承と発展

地域の文化資源の再発見と活性化



#### <成果及び課題>

- 歴史遺産の保存と活用を図るため、市報やホームページなどを通じて、情報を発信しています。また、奴国の丘歴史資料館での体験事業や奴国の丘フェスタなど、様々な参加型イベントの実施を計画しています。
- 多くの市民が訪れる場として、歴史遺産の十分な環境整備がなされておらず、散策コースなどの周辺環境整備が必要となっています。
- 市の貴重な歴史遺産を活かしたまちづくりの推進のため、歴史文化に関する市民ボランティアの養成を進めています。課題としては、登録者が少ないことがあげられます。今後は、幅広い市民参加が求められます。
- 若い世代への伝統芸能・伝承文化の継承と発展のため、「郷土カルタ取り大会」を実施しています。今後は、「こども歴史クラブ」の復活と住民活動への支援の取組が課題となっています。
- 地域の文化資源の再発見と活性化策として、「お宝文化百選」の登録・マップ作成に取り組んでいます。今後は、「春日風土記」の活用や地域の民俗文化の調査などを進める必要があると考えます。



須玖岡本遺跡の甕棺墓

### (4) 使いこなす — 施設・空間 —

#### <前計画の施策>

文化施設の整備・充実

地域における公共施設の活用

文化の視点によるまちづくり



#### <成果及び課題>

- 「ふれあい文化センター」は業務委託による専門性を重視した運営を行うことで、市民の文化芸術活動の場として充実を図っています。
- 多様な市民の要望に対応できるよう、設備の入替・更新などを含めた施設の整備が必要と考えます。
- 地域の公民館や学校などが文化活動の場として活用されていますが、さらなる活用の推進を図るため、今後の公民館施設改修に当たっては、文化に適した環境づくりを考慮するとともに、各種文化活動の情報を提供し、活用の機会を広げる必要があると考えます。
- 文化の視点によるまちづくりとして、緑化事業などを進め、歴史遺産と調和した景観づくりが課題となっています。

### (5) 伝える・聴く — 情報発信・受信 —

#### <前計画の施策>

文化情報受発信体制の充実

多彩な文化交流の促進



#### <成果及び課題>

- 文化情報の受発信体制としてエイ・メッセや市報、ホームページ、メールマガジンなどによる文化情報の提供を行っています。今後は、文化芸術の関心を広げる手段として、情報通信ネットワークを使った双方向による情報交流が必要と考えます。
- 多様な文化交流の促進のため、「コミュニティ・スクール（地域とともにある学校として、学校・家庭・地域が連携・協働し、子供を見守り共に育てていく制度）」での取組を通じた地域との文化交流、音楽の玉手箱、芸術文化ワークショップなどを進め、芸術家と市民の交流などを充実させていくことが必要と考えます。

## 3 改訂に当たって盛り込むべき視点

前記の各調査結果を踏まえ、計画の改訂に当たって盛り込むべき視点として以下の9つのテーマがあげられます。

### 改訂に当たって盛り込むべき9つの視点

- (1) **春日市のオリジナリティーを発揮する文化芸術の創出と発信**  
～歴史遺産と音楽のまちづくり～
- (2) **幅広い市民の文化芸術活動への参加促進**  
～参加意欲層の動機づけとなる仕組みづくり～
- (3) **効果的な文化情報の受発信**  
～市民の文化情報交流ネットワークの構築～
- (4) **子どもが文化芸術に触れる・体験する環境の充実**  
～将来を担う子どもたちの文化に対する意識の醸成～
- (5) **文化芸術活動を支える人材の育成・組織の確立**  
～自主的な市民活動の支援と総合的な推進組織づくり～
- (6) **多様な文化活動を促進する文化施設の機能充実**  
～ふれあい文化センターを核とする市民ニーズをとらえた施設環境の整備～
- (7) **歴史遺産を活かした市民が歴史文化に親しむ場づくり**  
～市民に身近な憩いの場としての歴史遺産の活用～
- (8) **文化のまちとしての幅広い文化交流の促進**  
～文化を通じた市民交流の活性化～
- (9) **長期的な視野に立った文化行政の推進**  
～総合的な文化行政を推進するための行政各課の連携強化と市民への浸透～



吹奏楽クリニック